

堺町生産組合

組合長 徳茂 順一

新潟県 長岡市

PRポイント

気候変動等の様々な課題に向けた改善策に取り組むことで安定単収を実現！



設立年月：平成19年5月

構成員：23名

基幹作物：R7大豆 20.2ha
(エンレイ13.2ha、里のほほえみ6.9ha)



培土の様子

特徴：大豆栽培においては、水田における**湿害対策**（弾丸暗渠、耕耘同時畝立て播種等）の実施、**土壌診断に基づく資材散布**等、生産性向上に向けた取組を実施。**気候変動の影響を緩和するため、状況判断しながら対応策を実施**する等、課題に向き合い改善策を検討し、安定した単収の確保を実現。

栽培のポイント

- 大豆の生育促進剤として、有機100%液肥や追肥として窒素液肥の散布により、安定した収量確保と収穫時の作業効率の向上を実現。
- **湿害対策**として、弾丸暗渠の施工や耕耘同時畝立て播種を実施。また、**土壌診断に基づく酸度矯正資材の散布**により生産性向上を実現。
- 排水対策として、播種前の4月頃に排水口を開けている。近年の夏場の高温に備えて、**播種後は暗渠栓を閉じ**、降水量が多いと予想される時は暗渠栓を開けている。
- 生育の差はほ場が大きく影響していると考えるため、**粘土質ほ場を避ける**等、大豆生産に適した圃場を選定。



液肥散布の様子

経営のポイント

- 1年間の作業で使う機械は、組合で導入した機械と組合員個人所有の機械を使用。この場合は、組合員には機械使用料として支払う。
- 組合では需給調整やブロックローテーションの実施方法について調整することで、大豆の**団地化を推進**。
- 県が主催する大豆実需者との意見交換会に参加し、**実需者の求める大豆について情報収集**を実施。

大豆生産の課題

- 大豆栽培での課題は、**雑草対策（タデ、エノキグサ、ヒエ等）**が大きく比重を占めている。
除草剤での処理が難しいクサネムなどは人的労力で対応しているが、人材確保に苦労している。
- 成熟期の高温・少雨により、粒大や品質等に影響が出ているため、砂地土壌中心に**畝間かん水を適宜、状況判断しながら実施**。
- 風通しの悪いほ場ではダニの被害が多くなっている。



畝間かん水の様子

今後の展望

- 大豆栽培における作業は、酷暑での作業が多く、高齢化により年々作業が厳しい状況であるため管理機はキャビン付きに更新したり、ドローンの導入等に取り組み、**機械の効率的なフル活用を検討**する。
- 単収向上に向けて、**効果的な除草体系**や**栽培品種選定**に取り組み、生産量の拡大を図る。